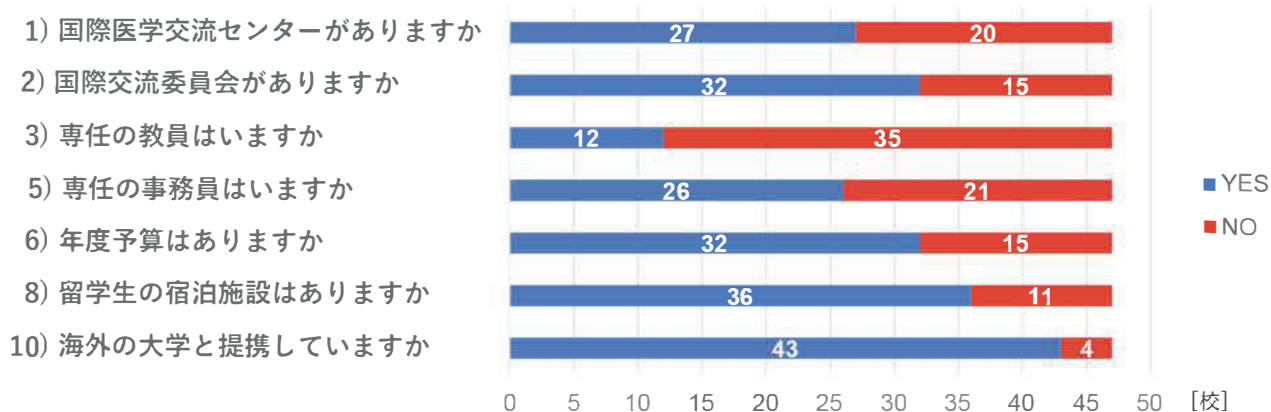


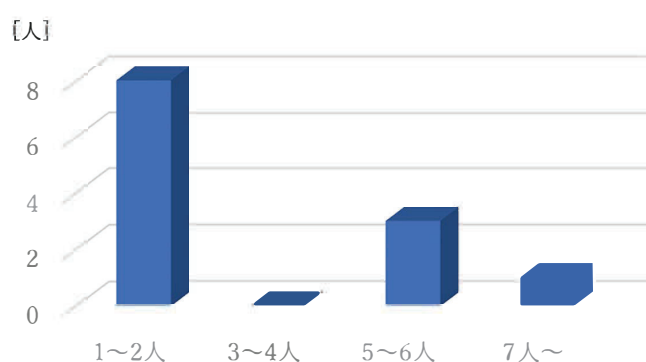
# 国際交流センターに関するアンケート調査 (2023年4月実施)

全国 医学部・医科大学 (81 大学) と医療大学 (1 大学) の医学部長宛, アンケートを Google form もしくは 郵送にて送付. 47 大学から回答を得た (回答率: 約 56.6%)

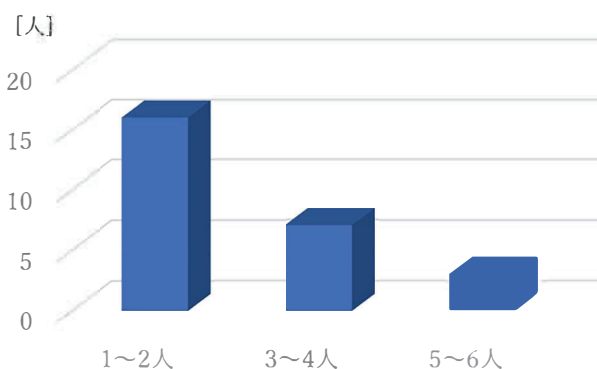
## (1) 国際交流センターに関して



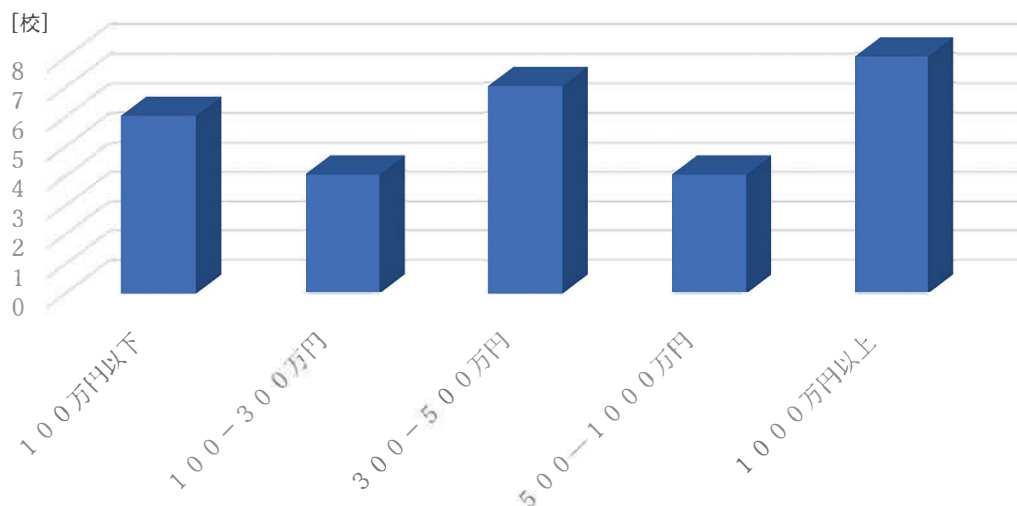
3' : 3にて「いる」と回答した大学の専任の教員人数は何人ですか?



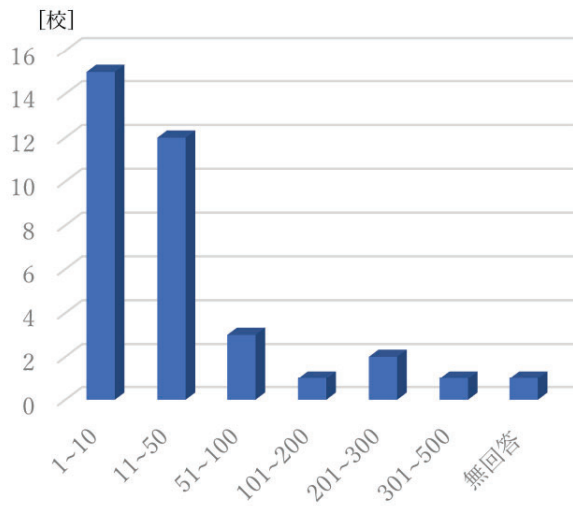
5' : 5にて「いる」と回答した大学の専任の事務員人数は何人ですか?



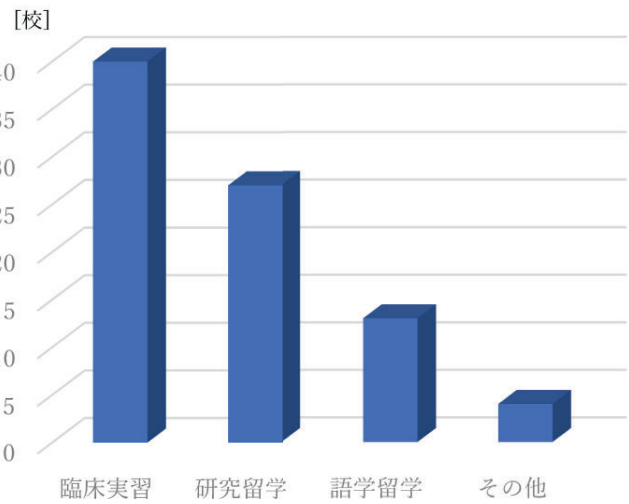
6' : 6にて、「ある」と回答した大学の予算はどのくらいですか?



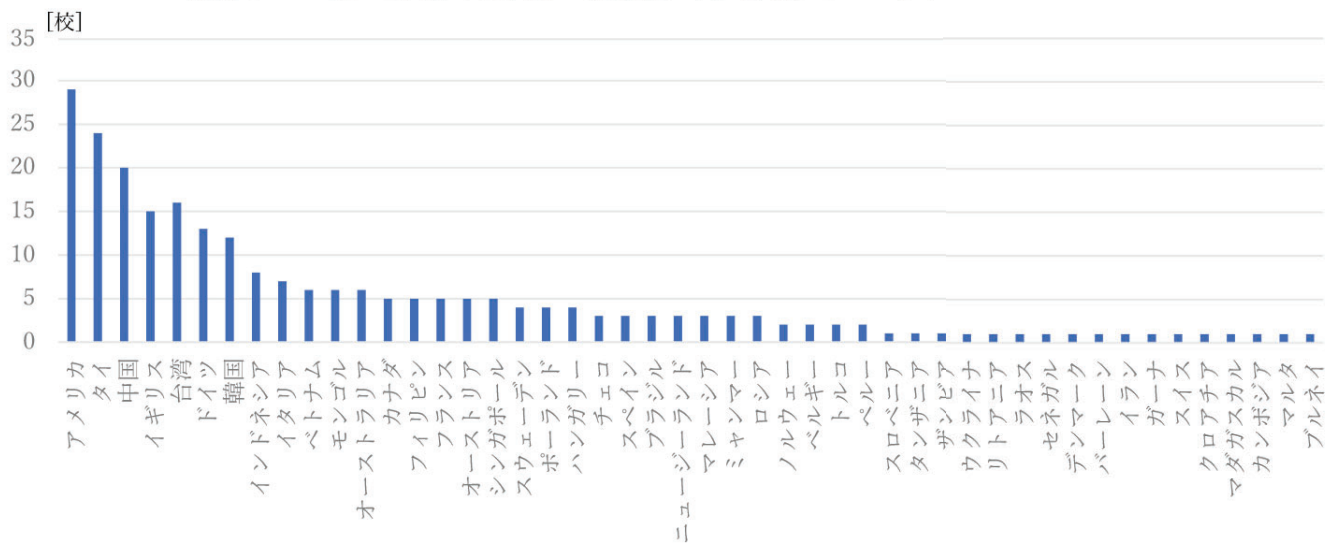
8' : 8にて「ある」と回答した大学の  
宿泊施設の収容規模は何人ですか？



10' : 10にて「提携している」と回答した大学の  
連携内容はどれですか？ (複数回答可)



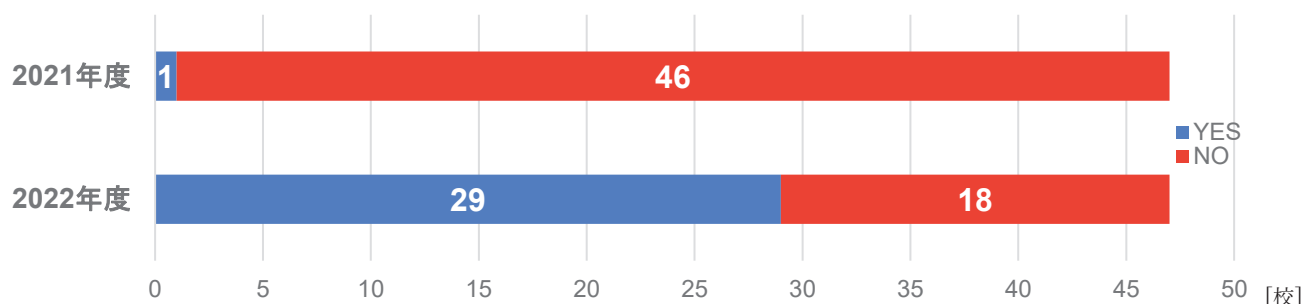
10' : 10にて「提携している」と回答した大学の提携先の国/地域はどこですか？ (複数回答可)



## (2) COVID-19 禍における国際交流に関して

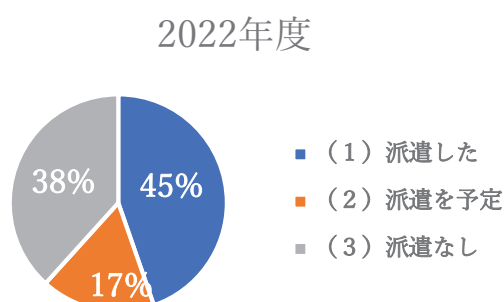
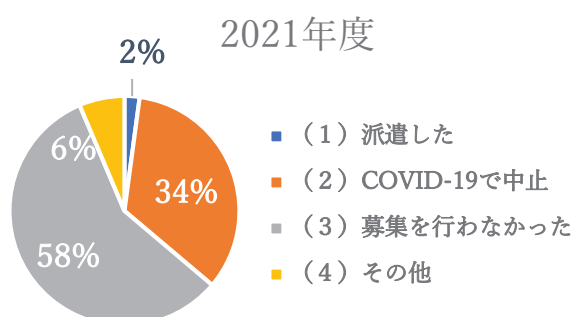
### I. 大学主催の海外臨床実習派遣について

#### ① 学生を海外臨床実習で派遣しましたか？

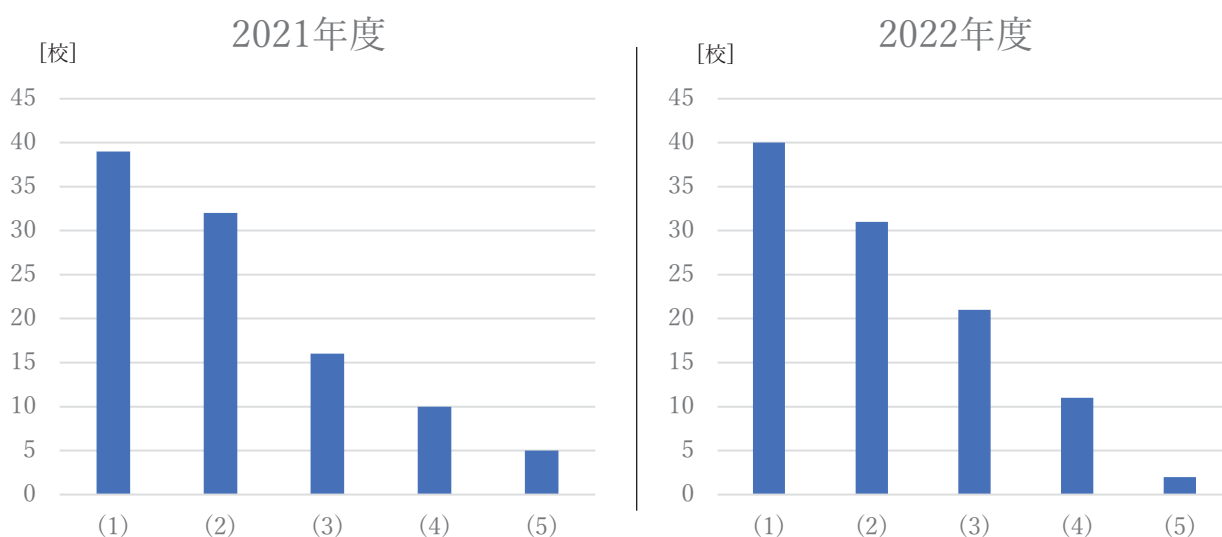


※ 派遣予定は YES に含む

内訳は以下の通り。



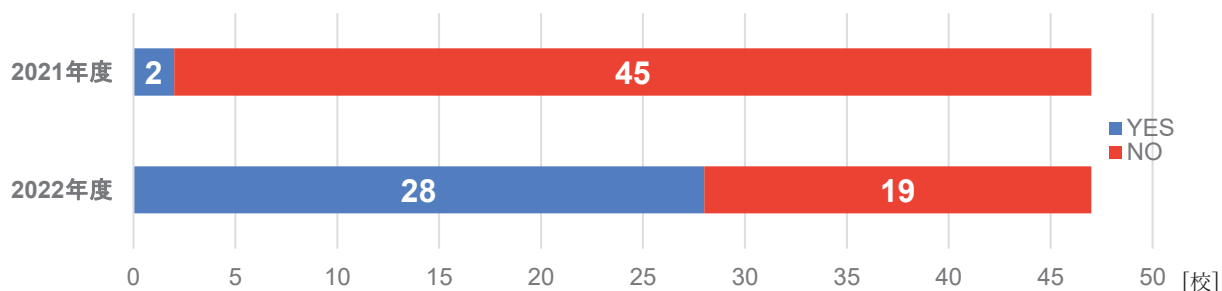
#### ② 学生の海外派遣可否に関して、何を基準に考えましたか？(複数回答可)



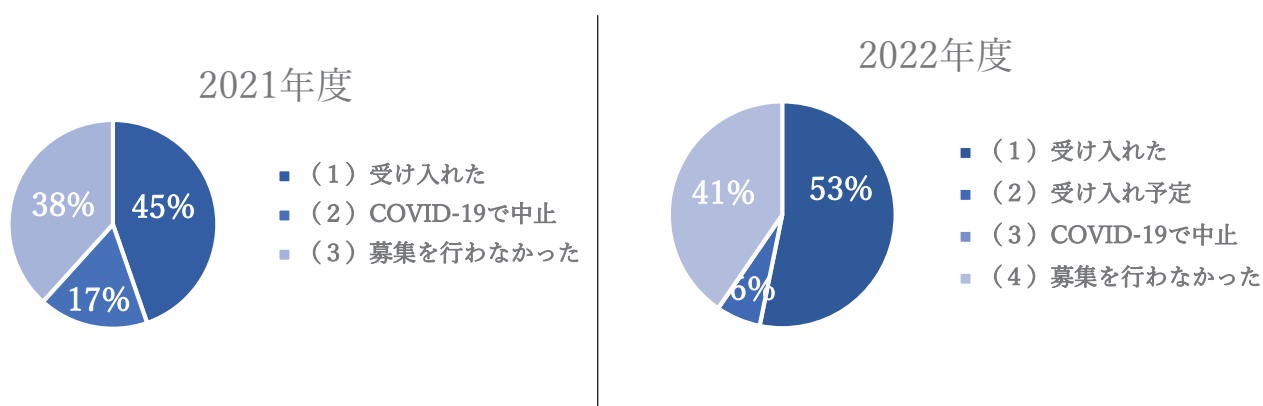
- (1) 渡航先国の外務省の感染症危険レベル
- (2) 国内の感染警戒レベル
- (3) 渡航先の入国時及び帰国時の行動制限措置(隔離等)がないこと
- (4) 自施設の感染対応
- (5) その他/無回答

## II. 海外からの臨床実習生の受け入れについて

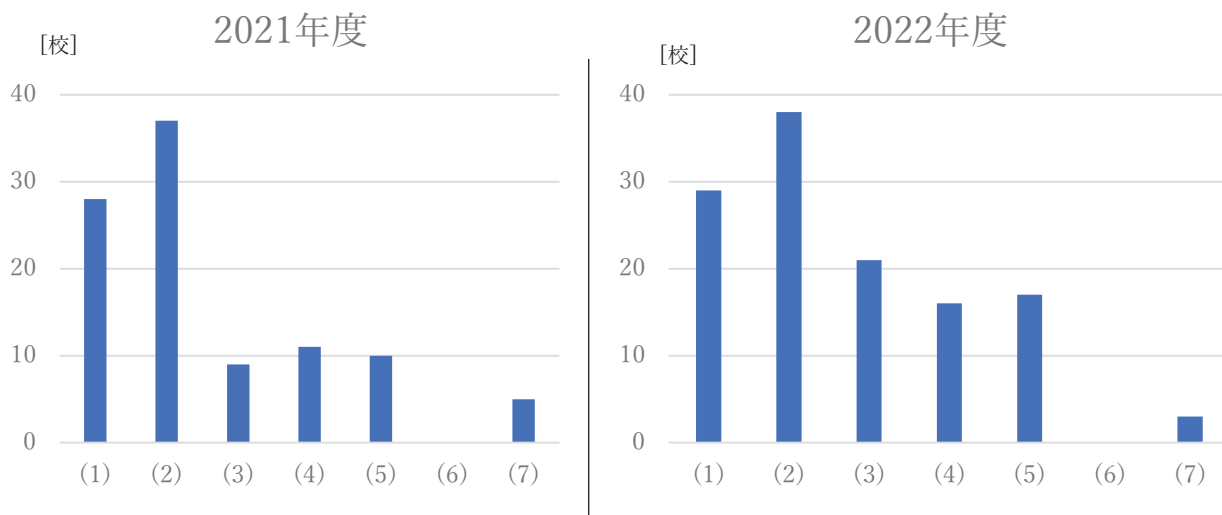
### ① 海外から臨床実習生を受け入れましたか？



内訳は以下の通り(「受け入れた」・「受け入れ予定」を YES としてカウント)



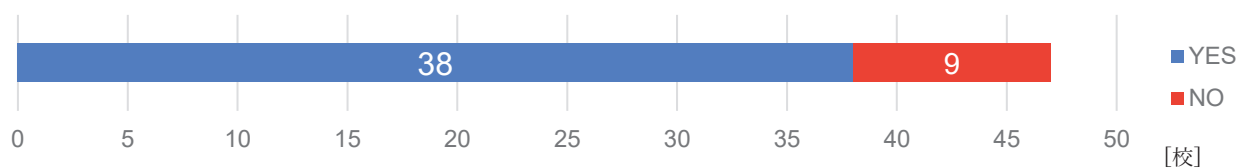
### ② 海外学生の受け入れ可否に関して、何を基準に考えましたか？(複数回答可)



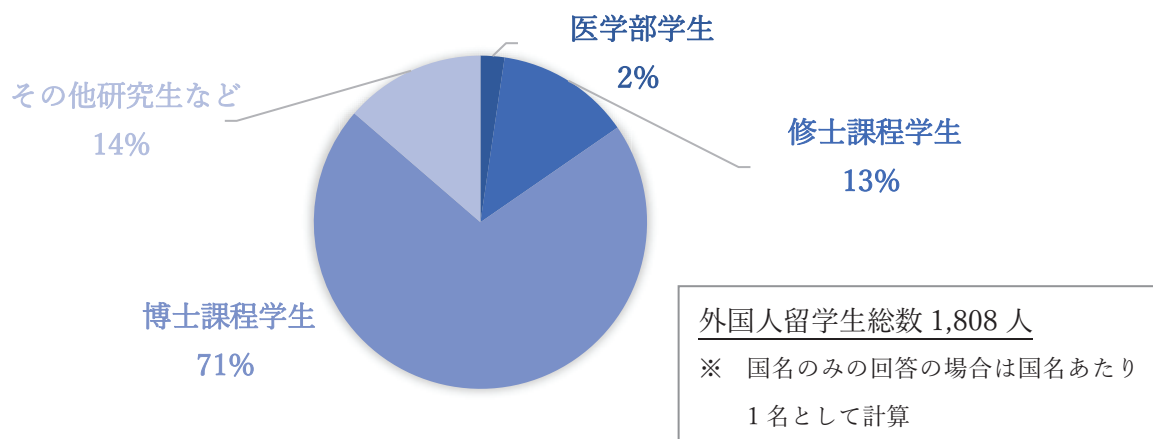
- (1) 海外の学生居住地の外務省の感染症危険レベル
- (2) 国内の感染警戒レベル
- (3) 日本政府が入国に際し有効と認めるワクチン接種証明書を所持している
- (4) 入国時に行動制限措置(隔離等)がない国からの学生であること
- (5) 自施設の感染対応
- (6) 受入診療科を限定する
- (7) その他/無回答

### III. その他の国際交流について

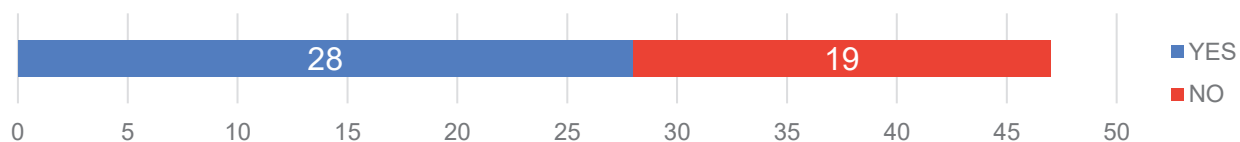
#### ① 現在、外国人留学生(臨床実習生)はいますか？



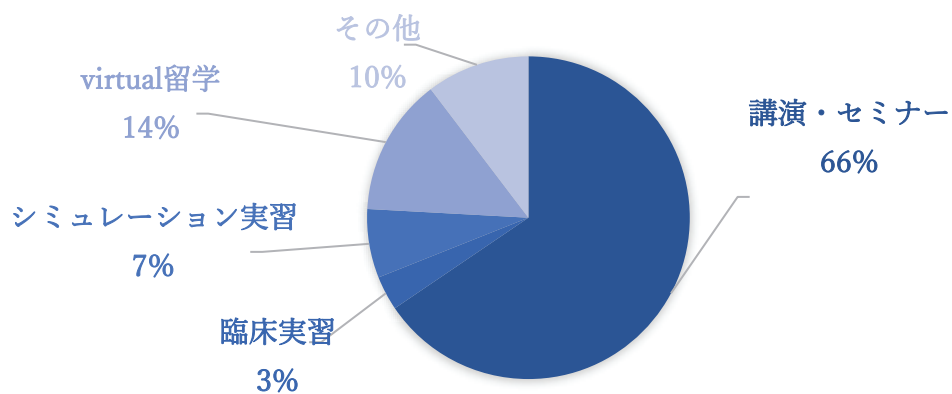
「いる」と回答した大学における外国人留学生の内訳は以下の通り。



#### ② Online での国際交流を行いましたか？



「はい」と回答した大学における実施内容の内訳は以下の通り。



具体的な実施内容例は以下の通り(一部抜粋)。

対象者	交流先	期間	交流内容	効果
	チュラロンコン大学	5日間	オンライン講演	こちらの教員の良いFDになった
教養教育履修 学生の希望者 (医学科の場合 1-2年生)	英国シェフィールド大学	1週間程度	英語学習、相手側 学生とのオンライ ンでの交流など	コミュニケーション能力の向上に一定の効果
学部学生	協定校 (タイ・マヒドン大学)	3回 約2h/回	オンラインCPC	事前に症例を共有し、オンラインで双方の大学の学生がそれぞれ症例報告・鑑別診断について意見を交わし、専門的な立場から教員が症例の解説を行った。発表方法や診断の深さ、英語力などについて発見があり、更にモチベーションを高めるきっかけとなった。
医学科6年生	ドイツ・グーテンベルグ 大学	2021年4月 中旬~8月中旬の 約4か月	クリニカル クラークシップ	先端医療を学ぶことができた。
学部生	一例) モナシュ大学	4日間	模擬面接訓練	双方の学生がお互いの文化を理解し、情報を共有し、訓練を共同で進めることができた。
学生	華中科技大学(中国)	2022年7月11 日~8月5日	オンライン授業	留学成果報告会での発表をして、留学を希望する学生たちの刺激となった。

#### IV. Post-COVID19 (new normal)において国際交流で期待する変化は?(自由筆記)

以下アンケート調査結果より一部抜粋。

- ・より活発な海外学生との交流を目指すためにも引き続きオンラインの手軽さは残しつつ、実際に現場に行く経験も併せてハイブリットに学ぶことで、コロナ前に比べてより知識と実体験をバランスよく取り入れることが出来る
- ・ポジティブに捉えると、日本の大学に興味を持った学生に対しオンラインで気軽に情報を与えるチャンスが増えた
- ・派遣や受入前に、オンラインで双方の関係者(指導教員、学生、国際スタッフなど)と顔合わせをしておくことで、到着時や実習開始時にスムーズにコミュニケーションを始めることができる。これは、限られた短い派遣期間においては、有効な手段となり得る。さらに、受入診療科のドクターによる事前のブリーフィングや講義をオンラインで実施することができれば、現地では実習に集中し、より充実した海外実習になることが期待できる。
- ・これまでは対面行われていた海外の協定校の短期講座やプログラムにオンラインで参加することにより、本学の協定校だけでなく、相手方機関の協定校の学生とも交流することができた。
- ・コロナ禍以前は交流実績のなかった国や地域の機関と、オンラインで講演会やセミナーを開催することが可能となった。これにより、時間やコスト、カリキュラムなどの都合で訪問できない国・地域であっても現地の実情を知ることができ、新たに興味を持つことで更なる国際交流につながり、将来のキャリアを考えるきっかけにもなる得

ることが分かった。オンラインツールを利用することにより、国際交流の手段に選択肢が増え、現地に訪問することができなくても、学生の国際交流の涵養を促すことが期待できる。

オンラインで授業やワークショップ等の実施が容易になり、海外との交流がしやすくなる。オンライン上での現地の教員や学生との交流により、渡航前の準備や帰国後のフォローアップ体制を充実させることができ、海外研修の効果がより高まるようになると考えられる。

海外大学の教員による授業実施がこれまでよりも増えることが期待される。

オンラインはやはり便利で労力が少なく済むため、留学前の交流や、オンラインミーティングなど、今後もいろいろなイベントを継続的に行ってさらなる関係強化が期待できる。ただ、キャパシティの問題がある。機会があっても参加できる学生や教員が限られている。オンラインの活用により海外が以前よりさらに身近になったので、今後はこれが当たり前となって多くの方達が当たり前のように参加する時代を期待している。

オンライン教育のメリットが再認識され、海外の研究者や学生とのディスカッションのハードルが下がった。オンラインによる交流は国際交流の形態の多様化を生み出すと共に、さらなるグローバルな視点を身に付ける可能性が期待される。

これまで現場による対面実習が主流だったが、コロナ禍での ICT を活用したオンライン交流で培ったノウハウにより、幅広い経験を学生に提供できるようになると考える。

コロナ後、web 会議形式が一気に広まっており、メタバースも発展しつつあるので、今後は実際の対面と web を TPO に合わせて活用していくことになると思います。

従来型の対面式な現地訪問による留学において、現地の訪問でしか得られない体験の価値が再認識された一方で、デジタル技術を活用したオンラインによる海外大学との交流も今後見直していく課題の一つと考えられる。

対面とオンラインによるハイブリットな国際交流活動。

パンデミック前の現地に出向くプログラムに加え、オンラインでの短期留学や学生同士の交流が可能になった。

物理的な人的交流のみならず、オンラインなどでの国際交流が更に加速すると考えられる。教育・研究へ期待される効果は大きい。